

「早めの避難の大切さ」

宇多津町立宇多津北小学校 6年 中井 里菜 さん

私は、実際に土砂災害にあったことはありません。けれど、ニュースなどでは、災害にあっている地域を見ます。私は今まであまり土砂災害について考えたことはなかったのですが、他の地域などでは災害が起こっていていつか、私たちの住んでいる所にも土砂災害が、起こるのではないかと不安になりました。

大雨が続き、突然山がくずれ、木や土砂が流れ出し、家や車、橋が流され、たくさんの方が犠牲になり、それまで幸せに生活をしていたのに、土砂に飲み込まれどんなに苦しかっただろうと、悲しくなりました。

夏休み、祖母から水害の話の話を聞きました。祖母は、子供のころ愛媛県の大島に住んでいて、昔は堤防などがなかったため、台風が来たりすると、海岸に近い家は浸水していたそうです。祖母の家は、少し海岸からはなれていましたが、玄関から居間にあがる所を高くして少しでも浸水しないようにしていたそうです。

土砂災害は突然やってきます。まだ大丈夫だと思っても、待つてはくれません。すぐに避難することができるようにするには、どうしたらよいか考えました。

まず家の周りなど危険な所がないかと調べておくこと。次に、情報をテレビやけい帯電話などであつめ、確認します。最後に、早くにげれるように、水、非常食、着がえ、かい中電灯、ラジオをリュックに入れ、準備しておくことと、被害の状況によって、すぐに配給がない場合のために、3、4日分の食料と飲料を用意しておくことが大切だと思います。

今年の夏も、大雨で多くの方々が被害にあっていました。私は大丈夫だと思わずに、自分の住む地域に被害が起こる前に、自分の身近な人が、犠牲になってしまう前に、早めに避難することが、とても大切だと私は思いました。

作文を書くことで、家族や、祖父母と、災害について話し合うことで、改めて災害の怖さや、命の大切さを学べてよかったですと思います。